

新型コロナウイルス感染防止対策マニュアル

オーエンス泉岳自然ふれあい館 2020.6.30 Ver.2

1. 本マニュアル策定の趣旨

泉岳自然ふれあい館では、新型コロナウイルス感染防止のための対策を講じた上で、令和2年7月1日から本館宿泊利用を含めたすべての利用を再開します。

再開にあたり、利用者の皆様に安全・安心を確保して利用いただくため、本館利用に際しての感染防止対策をまとめました。利用者の皆様におかれましては、本マニュアルを踏まえて感染防止対策を講じた上でご利用くださいますようお願いいたします。

特に、学校を含む団体利用につきましては、当館との事前打合せを綿密に行い、安全・安心な活動ができますよう、ご協力をお願いします。

なお、新型コロナウイルス感染症の動向は日々変化しているところです。感染症の発生状況等により、今後ふれあい館の利用等に変化が生じる場合には、本マニュアルも見直しを行うことを申し添えます。

2. 事前準備について

利用前に行っていただくこと	利用前の健康状態の確認	一般団体および主催事業参加希望者 →体調チェックシート(様式はホームページよりダウンロード可)に記入し、当日提出してください。 学校団体 →学校独自の健康観察を行っている場合には、体調チェックシートの提出の必要はありません。
---------------	-------------	---

利用日5日前からの健康観察の結果

- ①発熱が続いている場合
- ②息苦しさ(呼吸困難)、強いだるさ、腹痛、吐き気、軽度でも咳、咽頭痛、味覚・嗅覚の異常等の症状が続いている場合
- ③その他体調が優れない場合

→左記のような症状がある場合にはふれあい館の利用は控えてください。

感染予防のための準備物	団体としての準備物	・消毒用アルコール、体温計等 →消毒用アルコールはふれあい館でも準備しますが、数に限りがあるため、持参にご協力ください(屋外での活動の際には持参いただいたアルコールをご使用いただきます)。 ・各部屋で出たごみをまとめて捨てるためのごみ袋
	個人としての準備物	・マスク(活動内容や宿泊日数に応じた必要枚数) ・うがい用のコップや手洗い後のハンカチ、ティッシュ等
※その他、団体独自に感染予防に必要と考えるものがあればご準備ください。		

3. 主な館内活動時の感染予防策について

全ての活動に共通して (利用者の予防策)

- 館内での活動は原則としてすべてマスク着用です。ただし、熱中症等の健康被害が発生する可能性が高いと判断した場合には、マスクを外してください。ご協力をお願いします(基本的にはふれあい館職員もマスク着用での対応になります)。
- アルコールによる手指消毒,手洗い,咳エチケットの指導の徹底をお願いします。
- 定期的に体温測定等,体調チェックをお願いします。
- 館内および宿泊室等の定期的な換気,消毒にご協力ください。
- ご用がある場合は,貸し出し用PHSを使用するか,受付にお声掛けください。

主な館内活動	ふれあい館の予防策	利用団体の予防策
入館時	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者が玄関ホール等で密にならないよう誘導する。 ・宿泊室の清拭消毒(ドア等触れる部分を中心に)を行う。 ・利用団体が多い場合,荷物置き場を密にならないように設定する。 ・受付等対面する場所ではアクリル板等を設置する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の健康状態を確認する。 ・上靴をはいてから手洗いやアルコールによる手指消毒を実施する。 ・シーツ,枕カバーの受け取りは引率者が代表で受け取る。 ・割り当てられた宿泊室の中で,可能であれば救護室(保健室)を設置する。 ・消毒液や清拭や消毒作業用の布巾(廃棄してもよいもの)等を各団体で準備する。
つどい (であい・朝・わかれ)	<ul style="list-style-type: none"> ・原則としてつどいは行わない。 ・実施する場合,であい,わかれのつどいは単独で,挨拶程度で行う。 ・可能な限り,職員のベッドメイク,施設の使い方の説明は省略する。 →オリエンテーションDVDの貸し出しを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・朝のつどい等は団体独自で行うのは可。その場合同期日利用団体同士で話し合い,活動する場所を調整する(つどいの広場,体育館,多目的ホール等)。
大食堂での食事 (朝・昼・夕)	<ul style="list-style-type: none"> ・同一方向で座れるようにする等,座席の間隔に留意する。 →1回の人数を定員の半数以下(150人程度)に制限し,間隔を空けて使用してもらう。 ・日曜日夕食のバイキングは実施せず,おかずは個々に皿盛りで提供する。 ・団体数が多い場合,食事を2回に分け,入れ替えて設定する。 →状況に応じて食事時間の延長等柔軟に対応する。 ・順番待ちの間隔を引率者に指導する。 ・下膳の動線を複数設置し,利用者同士の交錯を避ける。 ・一日の最後の利用終了後に清掃と消毒を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・同一方向で座る等,座席の間隔に留意する。 →1回の人数が150名を超える場合等は2回に分け,入れ替えて食事をする。 ・食事中以外はマスクを着用する。 ・必ず食堂に入る前に手洗いをしっかりと行う。 ・テーブルごとではなく,個人ごとに食器を下膳する。 ・下膳の際に密集しないように留意する。 ・食事後はふれあい館で準備した用具でテーブル等を清掃及び消毒を行う。 ・順番待ちの間隔に留意する。 ・朝食前後に体温測定を終えるようにする。
洗面所・トイレの使用	<ul style="list-style-type: none"> ・洗面所やトイレを定期的に消毒,換気する。※換気扇は常時運転 ・トイレの蓋を閉めて水を流すよう各個室に表示する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・持参したコップを使用する。 ・トイレの蓋を閉めて水を流すようにする。 ・手洗いを徹底する。

主な館内活動	ふれあい館の予防策	利用団体の予防策
入浴	<ul style="list-style-type: none"> ・脱衣所,浴室での周囲の人との間隔の確保を求める。 ・備品等を清拭消毒,換気を強化する。 ・浴室の入れ替え時に脱衣所,ドアノブ等の消毒を各団体に求める。 ・できる限り入浴時間を多めに確保し,感染予防に努めてもらう。 →状況に応じて入浴時間の延長等柔軟に対応する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1回あたりの入浴人数は定員の半数以下(25人程度)を目安にする。 ・浴室,特に脱衣所での会話をできるだけ控える。 ・脱衣所の使用した脱衣棚は利用した団体が清掃をする。 ・着替えた服は各自持参した袋に入れ,棚に直接タオルや衣服を置かない。 ・浴室の入れ替え時に脱衣所,ドアノブ等の消毒を行う(消毒用具はふれあい館で準備)。
宿泊室での過ごし方	<ul style="list-style-type: none"> ・宿泊室使用前,使用後の消毒を徹底する。 ・部屋の換気を継続的に行う。 ・室温が25℃,又は湿度が65%以上になったら廊下の冷房を稼働する(宿泊室に冷房設備はありません)。 ・人数調整が可能な場合は柔軟に対応する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・シーツ2枚と枕カバーを確実に使用する。 ・入室後,就寝前のベッドメイクまではふとんには触れないようにする。 ・使用しないふとん等には触れないようにする。 ・部屋の換気を常時行う。 ・部屋で出たごみは持参した袋に入れ,密封して指定の場所に捨てる。
17時の活動責任者等の打合せ	<ul style="list-style-type: none"> ・場所は玄関ホールで行う。 ・できる限り短時間で行うようにする。 ・距離を保てるような場の設定を行う。 ・連絡事項の引率者全員への周知徹底を求める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・マスクを着用する。 ・事前の手洗いやアルコールによる手指消毒を徹底する。
退館時	<ul style="list-style-type: none"> ・活動場所(特に多くの利用者が触れる箇所)の消毒を徹底する。 ・利用者退所時,玄関や玄関ホール等が密にならないよう誘導する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・シーツ,枕カバーは各階に設置した回収袋に返却する。
料金支払い	<ul style="list-style-type: none"> ・距離を保てるような場の設定を行う。 ・おつりの授受が発生しないように支払料金の準備を求める。 ・事務室カウンターに消毒用アルコールを設置する。 ・事務室カウンターにアクリル板等を設置する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・アルコールによる手指消毒を行う。 ・マスクを着用する。 ・可能な限りおつりの授受が発生しないように支払料金を準備する。 ・可能な限り口座振り込み(ネットバンキング)で支払う。

★感染が疑われる際のふれあい館の対応

- (1) 発熱や軽度であっても咳・咽頭痛,倦怠感等の症状がある人は申し出るよう要請します。
- (2) 利用者から感染が疑われる申し出があった際,同意を得た上で保健所に連絡し,その指示に従って対応します。
- (3) 発熱や呼吸困難等感染の疑われる利用者がある場合には,指定した宿泊室に待機していただき,マスク着用の上で外出しないよう要請します。
- (4) 感染者が発生した場合には,行動記録(食事をとった場所,宿泊室,利用したエリア等)の提出を求めます。
- (5) 他の館内利用者への情報提供は,保健所の指示に従って対応します。

★退館後,感染等が明らかになった場合の利用団体の対応

- (1) 直ちに,ふれあい館に連絡してください。

4. 各プログラムにおける感染リスクと予防策について

全ての活動に共通して (ふれあい館の予防策)

- 利用者の健康状態の把握(朝食時等1日の活動前に必ず検温するよう要請する)
- 職員の感染リスクの考慮・自己防衛策の実施
- ソーシャルディスタンスの確保
- 施設の換気や公共の場の消毒
- 各活動前後の手洗いの励行
- 活動で貸し出す物品の消毒(アルコール消毒や煮沸消毒)
- 約束事項の周知
- 時間に余裕を持った活動プログラムの検討要請

活動プログラムと予想される感染リスク	ふれあい館の予防策	利用団体の予防策
登山・ハイキング ・会話や息が上がることによる飛沫感染 ・休憩時、昼食時等の密集 ・食べ物の受け渡しによる感染 ・排泄物による感染 →どこで誰が排泄しているか分からない ・リフトを介しての接触感染	・間隔の目安として互いに手を伸ばして手がぶつからない距離等、具体的な例示をする。 ・登山支援ボランティアへ説明し、リスクや予防策への同意を得る。 ・登山途中の体調不良時の対応→対応マニュアルを配布する。 ・泉ヶ岳スキー場にリフト利用時の感染症対策を確認する。	・必要に応じてマスクを着用する(休憩時、会話時等)。 →ハイキングは登山に比べて負荷は少なく、マスク着用でも活動しやすい。 ・活動前に体調を確認する。 ・歩行時の間隔を確保し、対面での会話を控える。 ・休憩時・昼食時は一定の間隔を確保する。 ・食べ物の受け渡しはしない(回し飲み、回し食いの禁止)。 ・アルコールによる手指消毒を徹底する(排泄後、昼食時等)。 ・活動時は手袋(軍手)を装着する。 ・活動中の体調不良時の対応について事前に共有しておく。 ・汗拭きタオル等はビニール袋に入れるなどして適切に管理する。
沢のぼり ・会話や息が上がることによる飛沫感染 ・休憩時の密集 ・排泄物による感染 →どこで誰が排泄しているか分からない	・活動中の体調不良時の対応→対応マニュアルを配布する。	・必要に応じてマスクを着用する(休憩時、会話時等)。 ・活動前に体調を確認する。 ・歩行時の間隔の確保及び対面しての会話を控える。 ・休憩時は周りとの間隔を確保する。 ・アルコールによる手指消毒を徹底する(排泄後等)。 ・活動中の発熱発症時の対応について事前に共有しておく。
オリエンテーリング系ゲーム (ウォークラリー、スコアオリエンテーリング、ポイントオリエンテーリング、フォトハンター、館内オリエンテーリング、館内フォトハンター) ・会話や息が上がることによる飛沫感染 ・筆記用具やバインダー等の共有による感染 ・事前指導時等の密集による感染	・作戦会議やミーティング等は適度な距離を確保し、声を抑えて行う。 ・バインダー等用具を貸し出した場合、用具の消毒を行う。	・必要に応じてマスクを着用する(事前指導時、会話時等)。 ・活動前に体調を確認する。 ・歩行時の間隔の確保及び対面しての会話を控える。 ・休憩時等周りとの間隔を確保する。 ・屋内での事前指導等は密を避けるために間隔を確保する。 ・活動用のバインダー等は、可能な限り利用団体で準備するのが望ましい。 ・体が接触する動きは避ける。

活動プログラムと予想される感染リスク	ふれあい館の予防策	利用団体の予防策
<p>やってみっぺっチャー 館内やってみっぺっチャー</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会話や息が上がることによる飛沫感染 ・用具を介しての接触感染 ・事前指導時等の密集による感染 <p>※基本的に複数名で行うプログラムが多い。活動では接触機会が多いので、ねらいや実態に即しながら、接触を避ける等、工夫しながら活動することが望ましい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・密を避けるために種目に応じて人数を制限する。 ・複数団体が同時に活動を行わないよう事前に打ち合わせを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じてマスクを着用する(事前指導時、会話時等)。 ・密を避けるため、指定された間隔を確保する。 ・複数団体が同時に活動を行わないよう事前に打ち合わせを行う。 ・体が接触する動きは避ける。
<p>野外炊事 焼き板</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調理,その他活動全般における飛沫感染 ・食べ物及び用具を介しての接触感染 <p>本館は地域の感染レベルⅠの地域にあたり,可能な限り感染症対策を行った上で実施することは可能。なお,レベルが引き上がった場合は活動はできない。 ※文部科学省 「学校における新型コロナウイルス感染症に関する衛生管理マニュアル 2020.5.22」より</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・利用団体の要請に応じ,職員が説明する際は,マスク着用の上,拡声器を使用し,短時間で終える工夫をする。 ・貸し出し用の食器とスプーンはビニール袋に入れて貸し出す。 ・ジュースは全体の人数分を配布,接触人数の減少に努める。 ・野外炊事場の密を避けるため,十分な間隔を確保する。 ・活動で使用した調理場やテーブル等の清掃・消毒を行う。 ・調理器具に応じて,煮沸またはアルコールによる消毒を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・食事以外の場面でのマスク・手袋(軍手等)を着用する。 →加熱調理するものは手袋不要 ・手洗いを徹底する…調理前や配膳前等 →消毒に必要なもの(石けん等)は利用団体が準備する。 ・活動時における周囲の人との間隔を確保する。 ・個人で使う手拭きは個人で布巾を準備する。 ・調理器具や配膳で使う器具を拭く台布巾は複数人で使いまわさない。 →①ペーパータオルの持参 ②台布巾の係の固定 等 ・かまど係→①かまどは一つおきになるように使う。 ②薪割りは一で行うか,滑り止めがついた手袋を用意する。 ・飯ごう係→米とぎの洗い場は分散する。 ・調理係→隣のグループとの間隔を確保し,包丁仕事は対面にならないようにする。 ・食事会場を分散させ,席は間隔を空けて座る。 ・調理前後,調理器具は必ず洗剤で洗う。 ・食器洗浄時における感染リスク減のため,使い捨ての食器,スプーンの持参も可とする。 →使い捨ての食器,スプーンは袋に入れて利用者が持ち帰る。 ・洗い場は分散,密を避ける。 ・ごみは袋に入れ,口をしっかりと閉じて所定のゴミ置き場に入れる。
<p>テント設営・撤収,テント泊</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会話や息が上がること,他との接触による飛沫感染 ・用具を介しての接触感染 <p>※屋外で実施することから密は避けやすい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・職員の説明は最小限とし,利用団体に事前指導の徹底を求める。 ・テント1張あたりの人数が密にならないようにする。 ・シュラフは利用ごとにクリーニングを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じてマスクを着用する。 ・活動時における周囲の人との間隔を確保する。 ・テント内を常時換気する。 ・テント1張あたりの人数が密にならないようにする。 ・シュラフの共用はしない。

活動プログラムと予想される感染リスク	ふれあい館の予防策	利用団体の予防策
<p>キャンプファイヤー ボンファイヤー キャンドルファイヤー</p> <p>・会話や息が上がること,他との接触による飛沫感染 ・スタンツ等の活動を介しての接触感染 ※キャンプファイヤーとボンファイヤーは屋外で実施することから密は避けやすい。</p>	<p>・火の神等の衣装の貸し出しは行わない。 ・ワイヤレスマイク等貸し出した物品の消毒を行う。</p>	<p>・必要に応じてマスクを着用する。 ・フォークダンス等で手をつなぐ等の接触は避ける。 ・他者との前後左右の間隔を確保する。 ・ワイヤレスマイク等の使用時には複数による接触を避ける。</p>
<p>星を観る会,ナイトハイク</p> <p>・会話や息が上がること,他との接触による飛沫感染 ※暗い中での活動となるため,離れて歩くことは考えがたく密を避けるのは難しい。</p>	<p>・密を避けるため,間隔の確保を求める。</p>	<p>・必要に応じてマスクを着用する。 ・全員に懐中電灯を持たせる。 ・活動時における周囲の人との間隔を確保する。</p>
<p>クラフト</p> <p>(木片クラフト,チョロッキーナ作り,カンテラ作り,落ち葉のスタンドグラス作り,バードコール作り,木の葉のスタンプ)</p> <p>・会話や息が上がること,他との接触による飛沫感染 ・用具を介しての接触感染</p>	<p>・密を避けるため,間隔の確保を求める。</p>	<p>・必要に応じてマスクを着用する。 ・密を避けるため,間隔を確保する。 ・常時,換気をする。</p>
<p>歩くスキー スノーシューハイキング スノーハイキング</p> <p>・会話,息が上がることによる飛沫感染 ・用具を介しての接触感染</p>	<p>・密を避けるため,間隔の確保を求める。 ・職員の説明は最小限とし,利用団体に事前指導の徹底を求める。 ・支援ボランティアへ説明し,リスクや予防策への同意を得る。 ・説明,指導内容を工夫する(歩くスキー)。</p>	<p>・必要に応じてマスクを着用する(オリエンテーション時)。 ・活動前に体調を確認する。 ・アルコールによる手指消毒を徹底する(活動前後)。</p>